



雲南市議会議長

新年のごあいさつ

雲南市長

市民が創る雲南市をめざして

雲南市長 速水雄一



新年あけましておめでとうございませう。
市民の皆様には、希望に満ちた新春をお迎えのことと、謹んでお慶び申し上げます。
新しいふるさと、雲南市が誕生してから2年目の新春を迎えました。

この間、「生命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」を基本理念に掲げ、新市のまちづくりを進めてきたところでありませう。

迎えました平成18年は、この更なる推進に万全を期すとともに、市民の皆様とともに手を携え、積極的な行政・経営改革と的確な市政運営に努めてまいりる所存でありますので、どうぞよろしく願ひいたします。

さて、我が国の経済情勢は緩やかな回復を続けているものの、さらなる政策努力の強化・拡充による、デフレからの脱却に向けた着実な進展が必要とされており、国においては、小さくて効率的な政府の実現をめざし、政策金融改革や総人件費改革、規制改革などが進められています。

それらの改革に併せ、島根県においても、引き続き中期財政改革基本方針に基づく様々な施策の見直しを進めているほか、市長会・町村会と連携し、国と地方、都市と地方が共生共創する分権型社会の構築に向けた交付税制度改革への提言を行っているところでありませう。

まさに改革すべき時は今であり、市町村合併という機会を、新しいまちづくりへの挑戦に向けて行財政の仕組みを改革する契機とし、雲南市におきましては、各種事

業の精査や組織機構、定員、給与、公共施設の管理、第三セクター等の見直しに着手いたしましたところでありませう。
とりわけ、行財政改革につきましては、雲南市政財政改革推進会議を設置し、市民の視点からの行財政改革の検討をいただきながら、組織機構の改革、施設管理の統合などの改革を明らかにして臨み、断固たる決意をもって改革を推進してまいります。

さらに、雲南市の5つの将来像の実現に向け、次の施策に万全を期す所存であります。

「市民が主役の自治のまち」市内全地域での地域自主組織立上げによる地域づくりを進めます。

「快適生活のための機能と自然あふれる生活空間が共生するまち」市民の意見・要望を活かした市民バス交通ネットワークの展開と、今春、ダム本体工事に着手予定の尾原ダム事業の推進を図ります。

「誰もが健康やかに安心して暮らすまち」だれもが生涯現役で過ごせるまちづくりの実現に向け、身体教育医学研究所を開設します。

「ふるさとを愛し豊かな心を育む教育と文化のまち」子どもの居場所づくり事業を積極的に展開し、学校・地域が一体となり、子どもたちが安心して学べる教育環境整備を行います。

「多様な地域資源を活かした産業が発展するまち」産業振興センターを拠点に、ふるさと産業の振興と新ビジネスの創出に取り組みます。

将来を見据えた施策展開と市民が雲南市を自慢できるまちづくりをめざし、全力を傾注する所存でございますので、市民のみなさまの一層のご理解、ご協力をお願い申し上げますとともに、みなさまのご多幸を祈念いたしまして年頭のごあいさついたします。

「雲南市らしさ」を生み出すために



新年明けましておめでとうございませう。
希望に満ちた輝かしい平成18年の新春を迎え、雲南市の躍進を期して清新の気がみなぎるのを覚えます。

市民の皆様も、新しい年をご家族お揃いで健やかにお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

また皆様には日頃から市政に対する温かいご理解と絶大なご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は6町村がひとつとなり、雲南市として歩み始めた1年でしたが、合併は自治体ひとつとなり、しっかりとした基礎自治体を確立し、社会・経済情勢の変化に即応し、地方分権改革の流れと地方自治の課題の中、その確立を図るための大きな構造改革のスタートであります。

国が中核的課題としているいわゆる三位一体の改革における「官から民へ」、「国から地方へ」という流れの中、昨年の衆議院選挙において、自民党が圧勝しました。

この結果、10月14日郵政民営化法が可決成立し、行政・財政・経済・金融等の構造改革に一段と拍車がかかり、「都市」と「地方」のあり方がより鮮明となり、「小さな政府」は郵政民営化だけでなく、年金、福祉行政や地域コミュニティにも通じる重要な選

雲南市議会議長 吾郷 廣幸

忤に迫られています。

このように、社会・経済情勢が目まぐるしく変化していく中、雲南市は平成17年国勢調査において、5年前より1,918人の人口減少となりました。

このことは、少子高齢化・過疎化の進行だと言で片付けられない地域社会の成り立ちに関わる社会的問題であります。

それぞれの地域には、そこに住んで地域社会を形成し、その日々の生活から独自の風土が生まれ育てられています。ただ単に効率化・能率化を追求するだけでなく、雲南市の行く末をじっくり見据えて「雲南市らしさ」とは何かを、市民の英知を結集し方向性を定めなければなりません。

これからの雲南市がどうあるべきかは、平成18年度に策定される、平成26年度までの向こう8年間の『雲南市総合計画』の具現化を、今日の厳しい実態を踏まえ、「雲南」というこの地域の特性を生かしかに取り組んでいくかであります。

雲南市議会としてもより豊かな住みよいまちづくりを目指して今後更に創意工夫を重ね、市民の皆様方のご期待にこたえるよう決意を新たにしておりますので、どうか本年も相変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます新年のご挨拶といたします。